奈良県代協が総会
日本代協、道家氏が講演

奈良県代協（川本吉成会長）は、5月26日午後2時から平成23年度定時総会を会員27名が出席し、橿原市の大和信用金庫八木支店ビルで開催した。

東日本大震災の犠牲者を追悼する黙祷を経て、倫理綱領を唱和。その後、川本会長が登壇し、東日本大震災の保険金支払いに触れ、「現地では、保険会社と代理店が一丸となって保険金支払いに向けて鋭意努力していることはご承知のとおりです。会員の皆様にご協力をお願いした義援金は全国で1975万円余り集まり、奈良代協からも12万3000円送った。今後も義援金を受け付けるのでご協力をお願いしたい」と述べた。さらに、5月18日に損保協会から発表された、「損害保険大学課程」の創設に関して、「これを機会に損害保険代理店制度のあり方を考え直すとともに、社会との関わり方を深めていきたい。消費者が保険を選ぶときに信頼できる代理店として消費者にアピールできる指針となるよう我々も期待している。現在持っている認定保険代理士の資格は、そのまま損害保険協会の新しくできる大学課程の資格に適用されるイメージになろうかと思う。その制度の最新のホット情報をこの後のセミナーで、皆様にお届けしたい」と説明した後、「今、代理店としては他力本願の時代は終わった。自らの活路は自らが切り開いていく時代。奈良県代協は日本代協と共に歩んでいく」とし、代協会員の資質の向上や、お客様向けの情報活動の活用、社会貢献活動、そして組織力の強化に向けて取り組むことを明らかにした。この後、財務省近畿財務局奈良財務事務所・藤井眞樹子理財課課長、損保協会近畿支部奈良損保会士口博司氏、参議院議員・弁護士前川清成氏（代理）ら、来賓がそれぞれ挨拶し総会に移った。

川本 吉成会長

総会は1号議案から3号議案まで付議され、すべて承認可決した。22年度の事業実績では、年度末会員数は3名増え、118名となった。

引き続き開催されたセミナーでは、「新しくなる募集人制度」（損害保険協会の募集人制度と日本代協の認定保険代理士の統合について）というテーマで、日本代協常任理事・教育委員長の道家嗣典氏がわかりやすく今回創設されることになった「損害保険大学課程」の内容を説明した。

滋賀県代協が総会
今年は役員改選の年

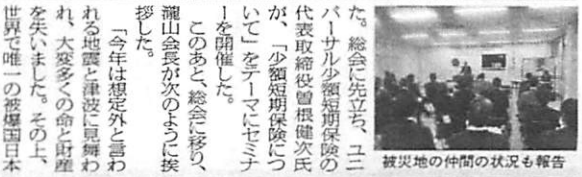
滋賀県代協（瀧山健次会長）は5月27日、会員80名が参加し、平成23年度第4期通常総会および会員セミナーを開催した。総会に先立ち、ユニバーサル少額短期保険の代表取締役曽根健次氏が、「少額短期保険について」をテーマにセミナーを開催した。

このあと、総会に移り、瀧山会長が次のように挨拶した。

「今年は想定外と言われる地震と津波に見舞われ、大変多くの命と財産を失いました。その上、世界で唯一の被爆国日本で、原子力発電所の爆発による放射能漏れが起こりました。このニュースについては皆様よくご存じですが、先日、近畿・阪神合同ブロック協議会の役員会で聞いてきた事をお伝えしたいと思います。それは、私達代理店の神様のような人の話です。海岸近くにあった自宅を山手に建て替え、都市ガスからプロパンガスに切り替え生活されていたため、今回の地震と津波の被害に遭わず、毎日大勢の子供達を自宅の風呂に入れられていると聞いて関心しましたが、もう二つ驚くことがあります。それは地震保険の付保率が約90％、自動車保険にも地震・噴火・津波の特約をかなり多くつけておられたと聞きました。私もこんな代理店になるよう努力しなければならないと思いました。

また、今回、各社とも保険会社と代理店が一緒に被害者を回られましたが、大勢の契約者から喜ばれたとも聞きました。

〝我々は他のチャネルとは違う〟という自信を持って頑張ろうではありませんか。滋賀県代協は、資金繰りの改善要因として「売掛金、前払い金、在庫、固定資産（遊休資産）」をなくすことが必要だ」と述べた。


被災地の仲間の状況も報告

兵庫県代協が総会
無料法律相談を開始

兵庫代協（紀 隆晉会長）は5月28日午後2時半から神戸市中央区の神戸市産業振興センターで、会員26名が出席し、第4期社員通常総会を開催した。黙祷、開会宣言の後、紀会長が登壇し、東日本大震災に関わる内容に触れ、地震のあった3月11日に日本代協臨時総会で東京に行っていたとき起こったことや、損保協会の5月18日発表の地震保険の支払状況などを説明した。こうした中で、「保険会社と代理店の一体となった取り組みによりスムーズな支払いができ、被災者から非常に高い評価を受けていると聞き、大変嬉しく思う。しかし、一方ではなぜ動めてくれなかったのかという苦情が殺到しているという。我々はもう一度原点に返り、地震保険を真摯な姿勢で普及していかなければならない」と挨拶した。その後、総会に移り、すべての事項を承認可決した。会員数248でスタートし同会の期末は249となった。さらに6月8日から無料法律相談が始まった。

紀 隆晉会長

また、23年度の事業計画では、教育研修事業や組織の拡大、広報活動の充実、地域社会・地球環境への貢献活動に取り組むが、組織拡大では今年度目標を会員の新規加入40会員、組織率24％へ引き上げるとしている。

第2部の講演では、公益財団法人暴力団追放兵庫センターの山﨑幹男氏が「最近の暴力団の情勢と不当要求に対する対応策」というテーマで講演した。兵庫県では、暴力団による不当な影響を排除し、安全で安心な県民生活を確保することを目的に「暴力団排除条例」が制定され、4月1日から施行されている。

三井住友海上経営サポートセンター
企業向けセミナー
「事業再構築」と「資金調達」

三井住友海上経営サポートセンターは6月1日、東京・千代田区の三井住友海上駿河台ビルで現在は情報化社会といえるとし、「情報化社会が何に基づいて構成されているかを考えなければいけない」と指摘。情報化社会におけるキーワードは、昭和25年当時を農業社会とすると、昭和40年ころは工業化社会そして情報化社会といえるとし、「情報化社会が何に基づいて構成されているかを考えなければいけない」と指摘。情報化社会におけるキーワードは「満足度」だとする自身の仮説を示したうえで、「満足度を高めた取り組みをするためには、おもてなしの心が不可欠になる」と強調した。

高畑 省一郎所長

小嶋 大志所長

加えて、今後の事業展開にあたっては、これまで長年成長し続けてきた業種のビジネスモデルを検証することが有用だとし、好例として宗教、金融、風俗の3業種を挙げた。各業種の成長要因は宗教が顧客の満足度の高さ、金融が資本の回転率の高さ、風俗がローコスト経営だとし、これらの要素におもてなしの心を踏まえたビジネスモデルの構築を推奨した。

次いで講演した小嶋氏は、中小企業による主な資金調達の方法として「日本政策金融公庫」「信用保証協会」「少人数私募債」の制度概要を紹介。日本政策金融公庫は08年10月に金融機関数団体が統合して設立され、民間金融機関の融資対象にならなかった中小企業に対しても、比較的融資を可能としている点などが特徴。ただし、税金の未滞納や従業員の社会保険を完備していることなどが条件となる。信用保証協会は零細・中小企業が金融機関から融資を受ける際に、同協会が債務の保証を行うことで、資金を調達しやすくする仕組みになっている。

これらの2団体が融資による資金調達だったのに対して、少人数私募債は直接金融による資金調達の方法で、中小企業が少人数（49名以下）に対して社債を発行し、直接資金を調達する。社債発行会社にとっては無担保での資金調達が可能なほか、社債の償還期間までは返済する必要がない点などが利点となるが、一括返済のため償還時の負担が大きくなりがちな面もある。また、社債権者に対しては経営情報の開示が必要となる。

こうした資金調達方法をふまえたうえで小嶋氏は、資金繰りの改善要因として「売掛金、前払い金、在庫、固定資産（遊休資産）」をなくすことが必要だ」と述べた。

店主のつぶやき

生損保代理店K社　島 英子　13

フラッシュバック

筆者の話で恐縮だが、先の連休の前に、歩行中タクシーと接触してしまった。数日入院したが幸い大事には至らず、6週間経った現在、身体は事故前の状態にだいぶ戻っている。何せ、人生初の交通事故との遭遇。不思議なもので事故当初、その瞬間のインパクトの記憶が無く、足の傷を見ても被害の実感がなかなか湧かなかった。

ところが時間が経つに連れ、外傷の大きさ以上の激しい光景や底知れない恐怖・悲しみが、被災者の心身に深く沈み込み、突然〝痛み〟となって浮上する。そんな苦しみを抱えてはいないだろうか。痛手の再現を引き起こす〝残像〟という後遺症。特効薬はあるだろうか。

予告無く再現されるにちがいない。

ふと、東北に襲い掛かった大震災のありさまが頭に浮かんだ。同時に、被災者の〝心の残像〟に思いを馳せる。直面した凄まじい光景や底知れない恐怖・悲しみが、被災者の心身に深く沈み込み、突然〝痛み〟となって浮上する。そんな苦しみを抱えてはいないだろうか。痛手の再現を引き起こす〝残像〟という後遺症。特効薬はあるだろうか。

まい足を負傷した。

〝ところのダメージ〟は、走行する車に対する恐怖心となって顕在化した。街中の車道を行き交う車だけでなく、自宅前を低スピードで通り過ぎる車にさえ、不快感を覚えて描いているものではなかったが、クラッシュの瞬間、自分の身体の片側（事故で打撲した箇所）に鋭が匠し掛かったような感覚が走った。鈍痛のような言いようの無い圧迫が、身体に〝軋み〟を起こし、思いを馳せる。直面した凄まじい光景や底知れない恐怖・悲しみが、被災者の心身に深く沈み込み、突然〝痛み〟となって浮上する。そんな苦しみを抱えてはいないだろうか。痛手の再現を引き起こす〝残像〟という後遺症。特効薬はあるだろうか。

過去に幾度もテレビ・映画で、そういった〝痛い場面〟を目にしてきたが、あくまでそれはフィクション。視覚的には辛くても、そこに〝実の痛み〟はないはずだった。

今回受けたダメージは、おそらく残像となって心に遺される。物理的な傷が癒えて事故の証が消えても、生活の隅々で脳が本物の〝痛み〟を感じ取ったように思えた。

そのドラマに映しだされたのは、走行車同士の交差点での接触。大事故を想像をはるかに超えた〝ところのダメージ〟は、テレビドラマの衝突シーンに、身体の軋みを感じたこと。

過去に幾度もテレビ・映画で、そういった〝痛い場面〟を目にしてきたが、あくまでそれはフィクション。視覚的には辛くても、そこに〝実の痛み〟はないはずだった。

今回受けたダメージは、おそらく残像となって心に遺される。物理的な傷が癒えて事故の証が消えても、生活の隅々で